

山北宮農だより

令和6年11月

TEL: 75-0004



西湘きんじろう

—— 【温州みかん】 *下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょう。 ——

仕上げ摘果 加工ミカンを無くすために、樹上選果を継続してください。

施肥 11月上旬

○秋肥 特選みかん配合 655 120kg/10a

施肥後、軽く中耕しましょう。ただし、着色が著しく遅れている樹木は、窒素の影響により着色不良の原因となりますので、施肥量を減らしたり、施肥時期を遅らせて、着色促進に影響が無いようにしましょう。

病害虫防除 10月下旬～11月上旬

○ミカンハダニ オマイト水和剤 750倍 収穫7日前 2回 133g / 水 100㍓

* 秋のミカンハダニは、果実の着色不良の原因となります。散布ムラの無いように防除しましょう。防除を徹底し、ハダニを貯蔵庫内に持ち込まないようにしましょう。

11月中旬 貯蔵病害に注意しましょう。

貯蔵病害

○青かび病
○緑かび病
○軸腐病

ベフトップジンフロアブル(劇) 1,500倍 収穫7日前 3回 66ml / 水 100㍓
又は、トップジンM水和剤 2,000倍 収穫前日 5回 50g / 水 100㍓

※降雨が多い場合は、再度散布をしましょう。

温州みかんと中晩柑では農薬の使用方法に違いがあります。ラベルをよく確認しましょう。

その他 自園地にて発生が見られたら重点的に防除をお願い致します。

カメムシの被害が多いと果実落果も予想されますのでご注意ください。

カメムシ スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 収穫前日 3回以内 50g/水 100㍓ 又は
ロディー乳剤(劇) 2,000倍 収穫7日前まで 4回以内 50ml/水 100㍓

※ 収穫時期を迎えている品種については散布日数にご注意ください。

収穫

大津四号は完全着色、青島温州は8分着色以上の果実から2～3回に分けて区分収穫しましょう。また、病害虫果や傷果の園内廃棄は鳥獣被害を助長します。園外廃棄に努めましょう。

【う め】

冬季剪定

11月～12月中に縮間伐を実施しましょう。剪定は骨格枝作りを重視し、主枝の配置や内向枝・平行枝等の切除を行います。

蕾を傷めないために年内にノコギリ剪定(太枝の処理)を終了させます。

灰星病対策

灰星病の罹病枝がある場合は冬季剪定時に必ず剪除し、園外廃棄しましょう。

* 灰星病の罹病枝がわからない方は、最寄りの営農経済センターにご確認ください。

施肥

○梅配合 120kg / 10a 10月に施肥していない園は直ちに行いましょう。

病害虫防除 11月上旬

○カイガラムシ類 アタックオイル 50倍 2,000ml / 水 100㍓

11月中旬以降は、花芽を傷めやすいので散布をしないで下さい。

カイガラムシ類は梅の場合、防除適期が収穫時期と重なり防除が難しい害虫です。

カイガラムシ類が多発している園では、この時期の防除を実施してください。(重要)

【キウイフルーツ】

病害虫防除 11月下旬～12月中旬（収穫後直ちに）

○かいよう病 ICポルドー66D 50倍 2kg / 水 100ℓ

土壌改良 11月～2月(収穫後)

○苦土石灰 100kg～200kg/10aを施用（土壌のpHを調整するため）

収 穫

11月上旬中旬以降の強い霜が降りる前に収穫・選果しましょう。収穫は果実温の高い時は避けましょう。収穫時は傷や打撲が生じないように丁寧に扱い、収穫した果実は、直射日光に当てないようにしましょう。コンテナ等に少しでも軟化している果実が混入すると、軟化果の発生につながるため、混入しないようにしましょう。果実温を上げないよう選別後は速やかに低温庫に搬入します。

【水 稲】

スクミリンゴガイ対策

管内でのスクミリンゴガイ（別名：ジャンボタニシ）の発生地域が徐々に拡大しています。発生拡大を阻止するためにも、水田では耕耘（速度はゆっくり、ロータリー回転は速く）を行い、貝を傷つけ越冬させないようにしましょう。また、水路や排水溝なども越冬場所となるので、防除、清掃を必ず行いましょう。

冬季にできる水田の除草管理 雑草防除

一般には田植えから7月末頃に除草剤を使って除草を行います。多年生雑草の塊茎や根茎は種子より低温や乾燥に弱いことから、冬季の耕耘によって除草効果が期待できます。また、収穫2～3週間後の除草剤の散布は効果的です。

水田刈跡 雑草生育期薬剤 ラウンドアップマックスロード

○一年生雑草 200～500ml/水 50～100ℓ 1回

○多年生雑草 500～1,000 ml/水 50～100ℓ 1回

【野 菜】

タマネギの定植

9月に播種したタマネギは、早生種は11月上旬、中晩生種は中下旬が定植時期となります（育苗期間はおおよそ55日）。定植時の苗は草丈が20cm程度、茎径が6mmくらいの大きさが適切で、これより大きいと春にトウ立ちする危険性があり、また分球する原因ともなります。

小苗定植では初期生育の不良や霜柱により倒れる恐れがあります。

苗は根が見えない程度の深さに植えるようにし、深く植えないようにしましょう

春キャベツ（3～4月収穫）の定植

秋まきキャベツは、本葉7～8枚が定植の目安です。大苗の方が小苗より定植後の生育がすぐれます。

まだ苗が小さい場合は、育苗床にトンネルをかけるなどして生育を進めましょう。

栽植密度は、うね間60cm、株間40cmが標準です。

令和6年産米の追加集荷の実施について

集荷日 令和6年12月6日（金）

集荷場所および搬入時間 JAかながわ西湘 福沢総合選果場 午前8時45分～11時

JAかながわ西湘 成田総合選果場 午後1時30分～3時

集荷対象品種 学校給食対象品種

（キヌヒカリ・はるみ・さとじまん・てんこもり・コシヒカリ）

出荷を希望される方は令和6年11月25日（月）までに最寄りの支店までご連絡ください。なお、契約の関係で6年産米の集荷は今回が最終となります。